



きび

Training

セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: **他人との挨拶+他人が触る**

目標 人と挨拶している間、座って待つことができる。
知らない人に触られても座って待つことができる。

Step1~4を繰り返し
トレーニングします。
できるようになったら
場所を変えて実施
しましょう。

※A:トレーナー(飼い主)
B:他人

他人との挨拶

Step1

マテ



訓練の始めに、犬をAの脚側に座らせ、必ず「マテ」をかけます。

Step2

他人との挨拶



Bが前方から歩いてきて、1m程度離れたAの正面で立ち止まります。Bが、おじぎをしたあと、ひと言かふた言、挨拶の言葉を話します。

Step3

おじぎ/会話



Aもおじぎをして挨拶の言葉を返します。

Step4

見送る



お互いの挨拶が終わったら、Bは犬に背を向けて来た道を戻ります。

よくなりました!

他人が触る

Step1

マテ



訓練の始めに、犬をAの脚側に座らせ、必ず「マテ」をかけます。

Step2

他人との挨拶



Bが前方から歩いてきて、1m程度離れたAの正面で立ち止まります。Bが、おじぎをしたあと、ひと言かふた言、挨拶の言葉を話します。

Step3

確認



BIは、AIに「犬に触ってもいいですか?」とたずねます。AIは「どうぞ」と答えます。
※このとき、犬の状態によっては再度「マテ」をかけましょう。また、BIに「待ってください」と伝え、補助手段や追加号令を用いてもいいでしょう。

Step4

他人が触る



Aが「どうぞ」と許可したら、Bは正面から犬に近づいて犬と目線を合わせ、上から犬の頭に手をのぼして頭部を軽く触り、犬の後ろへ抜けて立ち去ります。



ポイント

1 「マテ」からStep4の終わりまで、犬が必ず座り続けられるようにトレーニングします。

2 以下の行動がなくなるようにトレーニングしましょう。

【不合格の行動】

吠える/うなる/立つ/伏せる/飛びつく/後ずりをする/嫌がる/興奮しすぎる/かみつこうとする/座ったままでも吠える/座ったままでもうなる/恐怖反応を示すボディ・ランゲージが見受けられる/攻撃的なボディ・ランゲージが見受けられる/号令に約3秒以内で反応しない/用意に時間がかりすぎる

☆ドッグセラピー事業部では☆

ドッグセラピー事業部のセラピードッグとセラピストは、毎週1回、笠木恵子先生(My Dog Training School 主宰・家庭犬訓練士)のトレーニングを受けています。



指導を受けています

笠木恵子先生(左)
My Dog Training School 主宰
家庭犬訓練士

(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

http://www.therapydog.jp



燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol.16 / 夏号
2014年

Contents

- 理事長ごあいさつ
- 活動報告
- コラム:ドッグセラピーの現場から
- 新セラピースタッフ
- トレーニング:他人との挨拶/他人が触る



【理事長ごあいさつ】

2014年度の新たな調査研究スタート ドッグセラピーによる認知症の本態解明にトライ

私たちは2013年度、ドッグセラピーによる認知症高齢者のためのリハビリモデルの調査研究と構築にトライしました。これにより、ドッグセラピーが将来、介護保険制度に収載されるために必要となるデータや考察が得られました。

2014年度も、引き続き介護保険制度への収載を目指すとともに、ドッグセラピーによる効果の指標作成に挑みます。具体的には、大別して2つのテーマに絞った調査研究を進めて参ります。

1つ目は、認知症高齢者の「記憶力」(※1)に関する調査研究です。私たちはこれまでに、「新しい記憶が脳に入らない」と診断された認知症高齢者の方が、ドッグセラピーを実施した後、犬の名前や色、性別などを記憶しているという症例を何度も経験してきました。しかも、1週間以上前に犬と体験した出来事(散歩をしたなど)を覚えているという、遅延再生(※2)症例も数多くありました。このことを学会に発表するために必要なデータ処理を現在、進めているところです。具体的には、犬の名前・色・性別、犬が好きなことなど、犬に特化した項目ごとに記憶力を点数で評価し、合わせて経時的な変化を調査しています。この件に関しては、すでに効果を確かできるデータが得られたと手応えを感じてい

ます。そこで、私たちは第2段階として、国際的指標のMMSE(※3)の中から「記憶力」に関する項目を選出し、経時的な能力の変化を調べることにいたしました。これにより、犬に関するだけでなく、新規の記憶が脳に入ることを実証したい、ドッグセラピーによる効果を証明したいと考えています。こちらについては、一定の効果を示すデータが得られるまでに1年以上の調査期間を要するのではないかと予想しています。

2つ目は、認知症高齢者の方と犬との「関係づくりの成否」を客観的に示すための調査研究です。犬とのある種の関係が成立すると、認知症高齢者の方の「目の光り方」が明らかに変わり、ドッグセラピーを進めることができるようになります。しかし、この「目の光り方」を解析し、客観的データとして示す方法は見つかっていません。苦慮した結果、私たちは、目を含めた表情の解析によって代用できないかと考え、九州大学との共同調査研究に挑戦することにしました。

今年度の調査研究は、いずれも認知症の本態(原因)解明に迫る研究です。会員の皆様には引き続き、私たちの研究活動にご関心をお寄せいただけますよう、お願い申し上げます。



理事長 生長 豊健

医学博士
日本内科学会認定内科医
岡山県認知症サポート医
医療福祉法人雄風会理事長
社会福祉法人義風会理事長

※1:記憶力=新たに体験したことを覚える能力のこと。

※2:アルツハイマー型認知症の場合、直後再生(直後の記憶)よりも、遅延再生(しばらく時間を置いた後の記憶)の障害が高度となる。たとえば、検査直後の記憶は明確なのに、30分後には検査を受けたことすら覚えていないケースがある。

※3:MMSE=認知機能検査。Mini Mental State Examinationの略。

2014年度 今後の活動予定

- 第46回中国地区
老人福祉施設研修大会
(米子市)
2014年9月4日・5日
- 第7回ドッグセラピー
交流会
(岡山市・高松アクティブ)
2014年9月(予定)

第6回 ドッグセラピー交流会

平成26年5月18日(日)13:30~16:30



Shine



Kibi



Yuki



Melon

今回の交流会は平成26年9月中旬に予定しています。

ドッグセラピー事業部は「第6回ドッグセラピー交流会」を、老人保健施設「高松アクティブホーム」にて上記日程で開催しました。初参加の6名を含めた13名がご参加くださいました(参加費は無料)。

今回は、セラピードッグやスタッフの紹介、参加者の方の自己紹介の後、ドッグセラピー事業部におけるドッグセラピーについて、プロジェクターやDVDを使ってご説明しました。また、セラピードッグの基本トレーニング方法についても、実践を交えたご紹介をいたしました。続いて、利用者様がどのようなドッグセラピーを受けていらっしゃるのを知っていただくため、参加者の皆様に、ドッグセラピーを疑似体験していただきました。

体験を終えた参加者の方からは「介護の仕事に活かしたい(介護士O様/福山市)」「これまで犬のことをペットとしか見ていなかったけれど、疑似体験を通して(リハビリは)犬に助けられる部分が大きいと実感できた。ほめるトレーニングにも挑戦したい(K様/岡山市)」などの高評価をいただくことができました。



私たちが実施しているドッグセラピーや症例紹介、犬たちの基本トレーニングの方法などについてご紹介しました。

セラピーの疑似体験

参加者全員に「車椅子歩行訓練」「歩行器歩行訓練」「ベッド(マナー)」の3種のドッグセラピーを体験していただきました。

車椅子歩行訓練 シャイン



参加者の方に車椅子に乗っていただき、シャインとアイコンタクトを取りながら散歩をするリハビリを体験していただきました。車椅子のスピードに合わせて寄り添って歩くシャインの姿に、参加者の皆様から感動の声が上がりました。

歩行器歩行訓練 きび メロン



3種類の歩行器を使つての歩行訓練を体験していただきました。犬たちが歩行器を怖がらないように育てるために、小さい頃からどのようなトレーニングを積んでいるのかなど、具体的な質問にもお答えいたしました。

ベッド ゆき きび



ベッドで寄り添うドッグセラピーを体験していただきました。寝たきりの方にどのようなドッグセラピーを実施しているのか、また、ベッドでのマナーをどのように犬に教えているのか、衛生面における留意点などをご説明いたしました。

column

コラム ドッグセラピーの現場から

vol. 1

ドッグセラピーが日本で根付くために

私たちは、セラピードッグによる動物介在療法「Animal Assisted Therapy(AAT)」を実施しています。認知症高齢者の方の、症状や身体機能が少しでも改善していただけるようにと願い、PT(理学療法士)やOT(作業療法士)と相談しながら計画的にドッグセラピーを実施しています。

いつかドッグセラピーが介護保険制度に収載され、PTやOTが行う治療と同等の治療手段として、ドッグセラピーが治療の選択肢の一つに加わると想定し、その際に必要となるルールや基準作成に、私たちは取りかかっています。同時に、セラピードッグの認知度や社会的な地位を、「盲導犬」などのレベルにまで高めていきたいと考えています。

盲導犬には、専門の訓練所があり、育成プログラムも確立されています。しかし、ドッグセラピーには、それが確立されていません。盲導犬協会には、盲導犬候補のパピー(子犬)を、生後2か月から訓練開始の1歳になる



Hina

Sweet

まで、ボランティアの一般家庭で愛情を注いでもらって過ごす制度があります。1歳になり、適性試験に合格した犬は訓練所に戻り、半年~1年の訓練を受けて2歳前後で盲導犬デビューします。また、引退(10歳前後)後は、飼育ボランティアの家で家族の一員として過ごす、盲導犬専用施設で余生を過ごすというように、犬の一生をまるごと考えた制度が整っています。海外にも、引退後のセラピードッグを1か所に集めてケアする施設があります。

ドッグセラピー事業部では迎え入れた子犬を100%の割合でセラピードッグに育成しています。しかし、将来、介護保険制度に適用され、全国各地にセラピードッグとセラピストが常駐して同等のサービスを提供できるようにするためには、セラピードッグとセラピストの訓練施設と育成プログラム、犬たちの一生を考えたケア制度の確立が急務だと考えています。

リフレッシュコーナー



月に一度、セラピードッグのリフレッシュ(休日)のため、近隣の公園などにお散歩に出かけています。この日、ドッグたちは広い芝生を思いきり走ったり、のんびりしたり、自由に羽を伸ばすことができます。目的はリフレッシュですが、公園に行くが高齢者や小さな子どもたちと触れ合う機会があり、セラピードッグの「社会化」訓練の一助にもなっています。



4月 「お花見」 場所:高松城址公園

5月 「お散歩」 場所:吉備中央公園



TVの取材がありました!



新セラピースタッフ



香川秀治さん (かがわ しゅうじ) 広島市出身

2014年度、ドッグセラピー事業部に新たな仲間が加わりました。期待の新人男性セラピストをご紹介します。

経歴 2014年3月 「広島アニマルケア専門学校専攻科」を卒業。同年4月ドッグセラピー事業部に入社。

メッセージ 皆様はじめまして! この春から「きび」の担当をしています。学校では動物介在福祉を専攻しましたが、ドッグセラピーについては、日々「きび」から、いろんなことを教えてもらっています。ドッグセラピー普及のために、セラピードッグたちや先輩方、利用者の皆様から、これからも多くのことを学んでいきたいと思っております。早く一人前になれるよう努力しますので、今後とも、よろしくお願いいたします。



Miruru